新しいサービスを開発していくことに他ならない。公衆衛生従事者は、前もって、自分で、住民が望んでいるだろうというサービスを決めて、それを売ろうとしてはならない。公衆衛生サービスを定義し直すということは、公衆衛生従事者が対象となる住民にどのような利益を提供できるかを明らかにすることである。これは大変重要なことなので、決して公衆衛生従事者の直感に任せてはいけない。形成的調査は、対象者のニーズや要求をはっきりさせるのに必須なプロセスである。

公衆衛生従事者は、公衆衛生サービスの定義を徹底的に変えなければならない。つまり、自分たちが売っているのはもはや「health」ではなく、対象者により受け入れられるであろう魅力的で、明確で、深い、核となる価値観である。具体的なサービスのみならず、そのサービスが内包する価値も売るのであり、その価値こそが住民の心をとらえるのである。

3．ニーズの構造（文献 3）

ニーズは大きく分けて 3 つの部分から成り立っている。一つは、「住民が考えるニーズや優先課題」で、これは、社会調査等によって明らかになる。二つ目は、「実際のニーズ」で、保健医療従事者による科学的データによって明らかになる。第三は、「リソース、実施可能性、政策」で、これは、行政や政治状況のアセスメントで明らかになる。この 3 つのキーファクターが重なる部分が、住民、保健医療従事者、政策決定者の共通のニーズになる。

4．ニーズアセスメントのキーファクター（文献 4）

・関係者の幅広い参加の価値と必要性を心に留めること。
・重要な問題の情報収集については適切な方法を選択すること。
・ニーズをアセスメントする集団の最も重要な価値観を認識すること。
・ニーズアセスメントは参加型プロセスである。人々に、何かしてあげることではない。
・ニーズアセスメントは、政治的な要素を無視してはならない。ニーズアセスメントのプロセスを自分の力を弱めるものと見る人もいるだろうし、得られた優先順位はそれまでの確固とした体制に反することかもしれない。
・データ収集法それ自体は、ニーズアセスメントではない。ニーズアセスメントは、総合的な意思決定プロセスであって、データはその一部に過ぎない。

5．ニーズアセスメントへのコミュニティの参加（文献 5）

地域の関心や意見をどのようにニーズアセスメントに採り入れたらよいか。まず、地域のメンバーをニーズアセスメントのプロセスに入ってもらうことである。行政や専門家ではなく、地域のメンバーがそのプロセスの中心になればなるほど、あるいは、行政の既存のデータや資料だけではなく、住民の関心事や心配事などに関する調査のデータを用いれば用いるほど、地域住民自身の関心や価値観を反映したニーズアセスメントになる。地域と行政、専門家のパートナーシップが重要な役割を果たす。

6．ニーズアセスメントとアウトカムアセスメントの関係（文献 5）

ニーズアセスメントとヘルスアウトカムアセスメント、すなわち公衆衛生活動の結果のアセスメントの関連についてどう考えたらよいか。ヘルスアウトカムについては、近年、質の高いサービスはもちろんであるが、それを効率的に提供することへの関心の高まりから、特に注目されるようになってきた。サービスに費やしたお金やリソースが最大限効率

的に活用されて、地域住民にとって望ましい効果を生んでいるか、つまり、ニーズが十分に満たされたか否かがアセスメントされるのである。ニーズアセスメントとヘルスアウトカムアセスメントは、同じコインの裏と表の関係といえる。

7．ニーズアセスメントから事業化へ：ロジックモデルの重要性（文献6）

事業や政策の評価において、焦点を絞り直す一つのやり方は、その事業なり政策なりのロジックを説明するモデルを開発することである。つまり、目的、リソース、活動、結果がどのようにリンクしているかを示すロジックモデルである。

D．考察

healthに関連したニーズといった場合、そこには健康問題の定義が含まれるが、それは決して無色透明のものではなく、何らかの価値観を含んだものである。地域住民、保健医療従事者、政策決定者それぞれの価値観が反映されたニーズが存在する。従って、ニーズアセスメントをする際には、それが誰のどのような価値観に基づいた結果なのかを十分検討する必要がある。

さらにニーズアセスメントは、最終的に何らかの意思決定に関わるもの、つまり、意思決定をも含むプロセスとして認識されなければならない。無目的に、「地域の状況を知りたいから」行うデータ収集はニーズアセスメントとは言えない。最初から何らかの介入(事業）あるいは制度改変を目的を持ったプロセスとして捉える必要があろう。従って、捉えられたニーズと実際の事業計画・制度改革をつなげるロジカルなモデルが必要となる。

E．結論

ニーズやニーズアセスメントの概念を明確にすることを目的として、海外の文献を総括した結果、（1）healthに関連したニーズといった場合、そこには健康問題の定義が含まれるが、それは決して無色透明のものではなく、何らかの価値観を含んだものであるため、地域住民、保健医療従事者、政策決定者それぞれの価値観が反映されたニーズが存在すること、（2）ニーズアセスメントは、最終的に何らかの意思決定に関わるもの、つまり、意思決定をも含むプロセスであること、が明らかとなった。

（文献）

1)Nurit Guttman: Public Health Communication Intervention. Sage Pub. 2000.
2)Michael Siegel: Marketing Public Health. An Aspen Pub. 1998.
3)Lawrence Green: Health Promotion Planning. Mayfield Pub. 1999.
4)Belle Witkin: Planning and Conducting Needs Assessment. Sage Pub. 1995.
5)Charles Kerr: Handbook of Public Health Methods. McGraw-Hill. 1998.
6)Terry Hedrick: Applied Research Design. Sage Pub. 1993.

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
武村真治，林謙治	欧米諸国の衛生行政組織	公衆衛生	68巻1号	12-15	2004
林謙治	リーダーシップの養成一英米の対比から	公衆衛生	68巻1号	31-34	2004

Ⅳ．研究成果の刊行物・別刷

次ページより添付する。

20031387

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。